



第5号 令和5年12月22日 登別小学校 教務部研修

2学期 並行読書について

本校では、今年度も「並行読書」に積極的に取り組んでいます。

「並行読書」とは、教科書と関連させて、本や文章を読んだり、本だけでなく教科書などの文章を主体的に読ませる学習支援の一つです。

本校で行っている取組は、教科書の文章を読むのが苦手な子や、読書に親しんできた経験の少ない子にも、主体的に教科書とリンクした内容の本を読ませることにより、学習に前向きに取り組めるようにすることがねらいです。

今回は、2学期での取組状況の集計結果についてお知らせします。

「1学期と2学期の集計結果を比べてみると・・・」

本校では、「学力向上プラン」において、1学期の間に、国語の教科書「この本、読もう！」のコーナーに掲載されている本のうち、

低学年:8冊以上、中学年:6冊以上、高学年:4冊以上

の並行読書に取り組むことを目標として掲げてきました。

結果は以下の通りです。

R5(1学期)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
目標冊数	8	8	6	6	4	4
学年平均	11.7	34.0	14.8	11.3	1.3	7.9
目標冊数を超えた人数	17	26	15	15	1	12
目標冊数を超えた率	85%	96%	100%	65%	4%	86%

R5(2学期)	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
目標冊数	8	8	6	6	4	4
学年平均	27.7	56.6	22.7	14.2	9.9	10.5
目標冊数を超えた人数	20	27	14	19	21	13
目標冊数を超えた率	100%	100%	93%	83%	91%	93%

● 結果

- 学年平均は、すべての学級が目標冊数を超えていました。
- 目標冊数を超えた人数がすべての学級の80%以上でした。その中で、100%を超えた超えた学年もありました。

● 考察

この結果より、目標冊数平均や目標冊数を超えた人数は80%以上占めていることがわかりました。1学期並行読書を比べ、よい結果となりました。これは、図書委員会の取組や学校司書の下沢先生による楽しいイベントの開催、担任の働きかけなど、たくさんの要因が考えられます。しかし、2学期を通して1冊も読めていない子やあまり読めていない子がいるのも事実です。たくさん読めている子は、どんどん多くの本に親しんでいくこと、「あまり読めていない」「全く読んでいない」という子は、1冊でも多く触れてみることを目標にしていきます。週2回取り組んでいる朝読書の時間に、現在行っている単元の学習に関わる並行読書の本を手にとって読むこと、国語の授業で本の紹介等を行い、子どもたちに勧めていくことが十分に行われるようにしていきます。

また、今年度の結果を踏まえて、来年は目標冊数を増やしていくことも視野に入れていきたいと思えます。

～読書によって得られること～

「なんで読書する必要があるの？」

と、お子さんに聞かれたとき、どう答えますか？難しいですね。

読書は、学習ができるようになる他に、**語彙力や想像力を広げていく働き**もあります。文章構成や助詞・接続詞などの文法や、詩の技法なども、読書を習慣化することで自然と身に付けていくことができます。本の世界で起こる出来事の追体験によって、その状況や感情を想像し、人の気持ちに寄り添うことができるようになります。これは1学期にもそのままお伝えしました。でも、それだけではありません。大きな変化の多い世の中を生きるため、**経験則に頼ることだけではなく、先人の知恵、考え方、成功法などいろんな力を借りて課題を乗り越える人に成長させていく、働きもある**と考えられます。やはり、**生活の中に読書の習慣を位置付けていくことはとても重要である**と考えます。

アウトメディア読書デー(第2・第4水曜)を2学期より行ってきましたが、「家庭での読書率」はなかなか上がっていないという状況です。明日より長期休みにも入りますので、ぜひ時間のとれそうなときには、お子さんの実態に合わせて、読書に親しむ時間・機会を設けてくださると幸いです。**読書の習慣付けは、一朝一夕でできるものではありません。**学校の取組だけに頼ることなく、ご家庭でも、読書習慣の定着のため、お力添えをお願い致します。学校で借りた本をゆっくり読んでみたり、市立図書館・こぐま号で気になる本を探してみたり…。冬休み図書室開放日(1月11日)もありますので、ぜひご活用ください。

今回の結果に満足せず、本校でも、より一層子どもたちがより読書に親しむことができますよう、来学期からも工夫を凝らしていきたいと思えます。**学校とご家庭との協力**によって子どもたちの力を伸ばしていきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。